温室を造ろう

松村義敏

A、温室がなぜ必要か

植物でも動物でも、その生育する土地の温度に適応していきのこってきたものであるから、極端にその適応性を異にした動植物を育成するのには、とくべつな方策がかんがえられなければならない。こうして熱帯に育つ植物を、温帯ないしは寒帯で育てようとする場合に、温室を造って、この中に栽培するのである。ところでこれまで小規模に幼稚園や小学校などでこれを実施しているところもそうとうあるようであるが、大規模なものは学校ではできないので社会教育施設や大学の付属などとして設けられたものを一般に公開して、観覧に供されてきたのである。

幼稚園のみならず、小学校でも、自然研究において、熱帯植物を保存育成し、また、とくべつに注意をむけて観察するにはこれらの社会教育施設またはそれに類するものを、ときどき利用することだけではものたりない。そのわけは、同じ観察でも、手もとにおいて常時、それをみていて、たんねんに観察指導がされるのと、たまにいって、よその施設をすどおりしてみるのとでは、観察の主体性にかくだんの相違がある。いわんや、このような社会施設の恩恵にあやかれない地方が多い現状にあっては、なおのことである。

自分がまき、自分のみじかに育っていくものをみて生活することは、花壇や、一般戸外とどうように、温室においても指導効果をあげるのによいことである。この意味で、温室はもはや単なる装飾的のものでなくて、子どもの新しい遊びの場であり、観察の場なのであり、運動場に設営されている種々の遊具とどうように、自然観察上の必須設備といってよい。

もともと温室は、自然研究がさかんにさけばれるようになったので急に必要になったのではなくて、幼稚園に自然観察の必要が認められたときから必要な設備であったのである。けれども費用はかかるし、その必要を認めて、興味をもって管理する能力のある人がえられなかった。——極言すれば、保育が自然研究をわすれたかたちであったために、他の設備に比してたちおくれた観があるといってよい。

花壇や畑をつくるのは、その土地によく育つものの育成観察の場をつくることであり、温室をつくるのは、容易にその土地にみられないものを撫育することのためであるとかんがえてよい。

B、温室がどのように利用されるか

1. 生態博物館として

すでに述べたように、温室はまず熱帯植物としてめずらしいもの、たとえば洋蘭のようなもの、葉の特異ないわゆる観葉植物として、サンスビレア、クロトン、カラジウム、ベゴニアなど。睡眠植物として、オジギソウやマイハギ、さらに食虫植物のウワボカズラ、ハイジゴクや、サラセニアの類を保存育成して、生きた博物館として利用するのが一つの道である。

2. 幼稚園行事と関連して

もはや、クリスマスや母の日は、キリスト教にかぎらず一般幼稚園でまもられている年中行事である。そこでクリスマスにもちいる

猩々木のようなものを早いめに温室にいれて育てると、ちょうどクリスマスの時期に幹の先の葉が赤くなって花のようになる。これは都会でも、かならずしもどこでもえられるというものでないから、温室があればおおいにやくだつ。

母の日にもちいるカーネーションも、造花をもちいたのでは生気もないし、興味もうすい。むろん造花の工作としてかんがえればべつであるが、店頭で求めるとなるとかんがえものである。そこでこれをみずから温室でつくったものをもちいるようにしてはどうか。

雛祭りの節句は太陰暦ですると季節が一致するが、卒業と関連して太陽暦でおこなうことになっている。そこで桃の花も季節がずれる。したがって、桃を早く咲かせねばならないことになるが、このような場合温室が利用される。

3. 動物飼育のために

熱帯魚はもちろん、その他の動物でも、温室があれば、冬季にもっと活潑な活動をみることができる。

4. 冬季の観察のおぎないに

冬季は、冬季としての自然物があるにはある。しかし材料がじゅうぶんではない。したがって、もし温室があれば、冬季の不足をおぎなうことができる。

5. 室内環境を美化するために

保育室にかぎらず、幼稚園内部の全般にわたって、花をもって飾られることは、つねづねこころがけられていることであるが、ときに応じ、ところに応じて温室植物をおいてあることは、またひときわ興味深いものである。とくに冬季、花の不足する季節には、短時間温室よりだして装飾にもちいうる。たとえば、デンドロビウムやシプリペジウムのような比較的丈夫な洋蘭や、ベゴニア、シネラリア、プリムラ、グロキシニア、シクラメンなどがこの目的をはたすによいものである。

C、温室の規格と管理

1. 幼稚園の温室の規格

幼稚園の温室は、だいたい最低四・五坪から六坪ぐらいでよいとおもわれ、前者の場合、巾九尺に長さ三間ということになる。半鉄骨木造とすると、坪あたり二万五千円―三万円でできるので、十五万円ぐらいはみなければならない。形は、建物の南面の壁に接続せしめる場合には片屋根式にし、独立の場合は両屋根式にする。後者の場合はむねが南北にはしるのが適当な位置である。

植物をのせる台すなわちベンチは、幼稚園の子どもに適当な高さにすることをわすれてはならない。

2. 温室管理の大要

温室の世話をする人が、べつにいてもいなくても、幼稚園の先生がその管理の大要をこころえていて、主体性をもって、子どもの活動の場とするのでなければ効果がすくない。

温室の世話については、まず暖房についてもっとも安くあがるものをかんがえるべきで、たとえばレンタンのようなものでもじゅうぶん効果をあげることができる。また余裕のあるところでは、ガスや電気をもちいるのもよい、そして植物の耐寒最低温度を確保することがたいせつである。すなわち、十度以下にしては絶対だめであろう。

つぎに、温室では通風をよくし、ガラスがくもらないように窓を適当にあけて温床と湿度の調節をする。それから灌水と施肥は、花壇の場合どうよう、いつの場合もわすれてはならない。灌水量は植物によってことなるし、また植物によってはわざわざ葉の上から灌水するものもあるし、グロキシュアのように葉にかけてはならないものもある。

要するにすべての管理は、子どもとともにやれるようにする。温室は一つの新しい子どもの遊び場である。

（頌栄短期大学）